

平成 25 年度「国語に関する世論調査」の結果の概要

調査目的・方法等

調査目的	文化庁が平成 7 年度から毎年実施しているもので、日本人の国語に関する意識や理解の現状について調査し、国語施策の立案に資するとともに、国民の国語に関する興味・関心を喚起する。		
調査対象	全国 16 歳以上の男女		
調査時期	平成 26 年 3 月		
調査方法	一般社団法人中央調査社に委託し個別面接調査を実施		
調査結果	調査対象総数	3,473	人
	有効回答数（率）	2,028	人（ 58.4% ）

目 次

1 社会全体の言葉や言葉の使い方について

- ◆ 言葉や言葉の使い方に対する社会全体の関心は、どうなっていると思うか。……<問1>…4
- ◆ 言葉や言葉の使い方に関する社会全体の知識や能力は、どうなっていると思うか。<問2>…4
- ◆ 言葉や言葉の使い方への影響が大きいと思うものは何か。……<問3>…5

2 人とのコミュニケーションについて

- ◆ 初めて会った人とでも早く打ち解ける方が、時間が掛かる方が。……<問4>…6
- ◆ 相手から、どのように接してほしいか。……<問5>…6
- ◆ 相手に対して、どのような気持ちで接するか。……<問6>…7
- ◆ 相手から、どのように接してほしいか。<問5>/
相手に対して、どのような気持ちで接するか。<問6>……【比較】…7
- ◆ 人間関係を築くために、相手の個人的なことを知ることが必要だと思うか。……<問7>…8
- ◆ 人と接する際、相手や場面に合わせて態度を変えようとする方が。……<問8>…9
- ◆ 相手や場面に合わせて態度を変える人と、
同じ態度でいる人のどちらが好ましいか。……<問9>…9

3 読書について

- ◆ 1か月に読む本の冊数について。……<問10>…10
- ◆ 人が最も読書すべき時期はいつ頃だと考えるか。……<問11>…10
- ◆ 読書量は以前に比べて減っているか、増えているか。……<問12・問12付>…11
- ◆ 読書をする事の良いところは何だと思うか。……<問13>…11
- ◆ 自分の読書量を増やしたいと思うか。……<問14>…12
- ◆ 1か月に読む本の冊数、及び今後の読書量について。<問10・問14> …【質問間クロス】…12
- ◆ 電子書籍（雑誌や漫画も含む）を利用しているか。……<問15>…13
- ◆ 電子書籍と紙の本・雑誌・漫画と、どちらを多く利用するか。……<問15付>…13

4 敬語について

- ◆ 今後とも敬語は必要だと思うか。……………<問 16>…14
- ◆ 敬語をどのような機会に身に付けてきたと思うか。……………<問 17>…14
- ◆ 気になる言い方か。……………<問 18>…14
- ◆ 気になる言葉の使い方か。……………<問 19>…16

5 漢字を用いた語と外来語の意味・使い分けについて

- ◆ 同じ意味の言葉だと思うか。それとも、使い分けのできる言葉だと思うか。……………<問 20>…17
- ◆ 不特定多数の人に宛てた文書等に用いる言葉として、
どちらの言葉を使う方がいいと思うか。…………… <問 20 付>…17

6 「～る」「～する」形の動詞について

- ◆ 「～る」「～する」の言い方を聞いたことがあるか、また使うことがあるか。……………<問 21>…18

7 慣用句等の意味について

- ◆ どちらの意味だと思うか。……………<問 22>…19

備 考 百分比は各問いの回答者数を 100%として算出し、小数点第 2 位を四捨五入したため、百分比の合計が 100%にならない場合がある。また、百分比の差を示す「ポイント」については、小数点第 1 位を四捨五入して示した。
--

1 社会全体の言葉や言葉の使い方について

*報告書のページを表す。

言葉や言葉の使い方に対する社会全体の関心は、どうなっていると思うか。〈問1〉(P3*)
 —「以前よりも低くなっていると思う」が、30代~60代で、5割前半。—

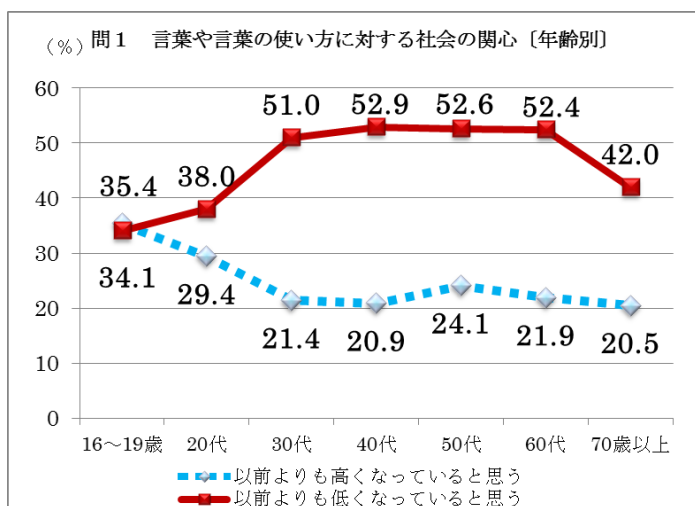
(数字は%)

以前よりも高くなっていると思う	以前よりも低くなっていると思う	以前と変わらないと思う	分からない
22.8	48.2	25.6	3.4

〔全体〕

言葉や言葉の使い方に対する社会全体の関心が、以前よりも高くなっていると思うか、低くなっていると思うか、以前と変わらないと思うかを尋ねた。

「以前よりも低くなっていると思う」(48.2%)の割合が、「以前よりも高くなっていると思う」(22.8%)を25ポイント上回っている。「以前と変わらないと思う」の割合は25.6%となっている。



〔年齢別〕

年齢別に見ると、「以前よりも低くなっていると思う」の割合は、30代~60代で5割を超えている。「以前よりも高くなっていると思う」の割合は、30代~70歳以上では2割前半となっている。

一方、16~19歳では、「以前よりも高くなっていると思う」(35.4%)の割合が、「以前よりも低くなっていると思う」(34.1%)を上回っている。

言葉や言葉の使い方に関する社会全体の知識や能力は、どうなっていると思うか。〈問2〉(P5)
 —「以前よりも低くなっていると思う」が、20代~50代で、6割以上。—

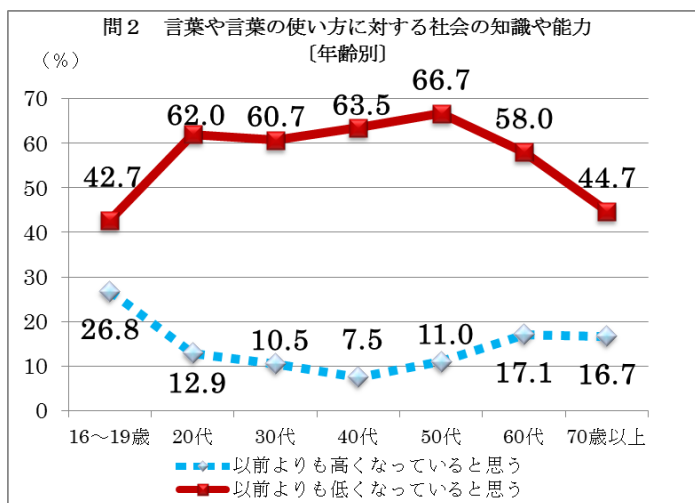
(数字は%)

以前よりも高くなっていると思う	以前よりも低くなっていると思う	以前と変わらないと思う	分からない
13.7	57.3	25.0	3.9

〔全体〕

言葉や言葉の使い方に関する社会全体の知識や能力が、以前よりも高くなっていると思うか、低くなっていると思うか、以前と変わらないと思うかを尋ねた。

「以前よりも低くなっていると思う」(57.3%)の割合が、「以前よりも高くなっていると思う」(13.7%)を44ポイント上回っている。「以前と変わらないと思う」の割合は25.0%となっている。



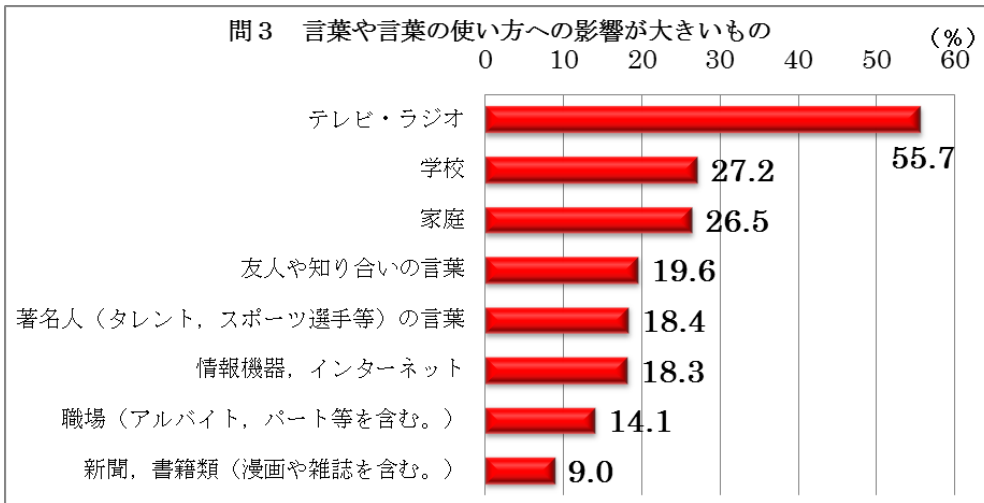
〔年齢別〕

年齢別に見ると、「以前よりも低くなっていると思う」の割合は、20代~50代で6割台となっている。また、「以前よりも高くなっていると思う」の割合は、同じく20代~50代で1割前後となっている。

一方、16歳~19歳では「以前よりも高くなっていると思う」(26.8%)の割合が他の年代より高く、2割台半ばとなっている。

言葉や言葉の使い方への影響が大きいと思うものは何か。〈問3〉（P7）

—「テレビ・ラジオ」と5割台半ば、「学校」、「家庭」と2割台後半が回答。—

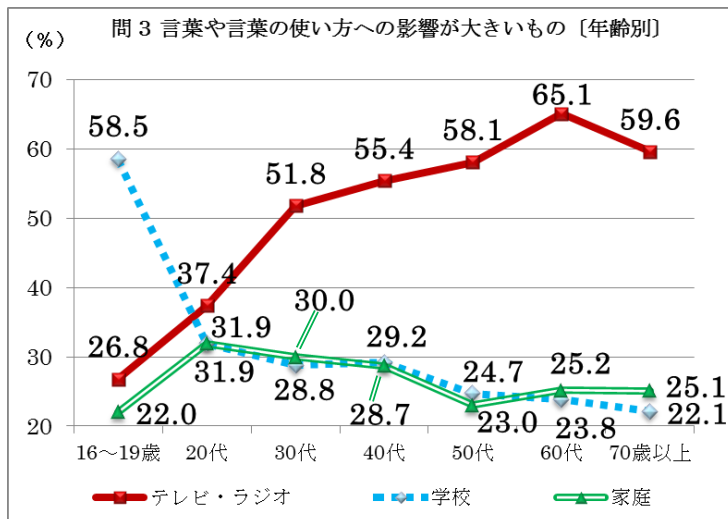


〔全体〕

社会全体の言葉や言葉の使い方への影響が大きいと思うものを尋ねた。(選択肢の中から二つまで回答。)

「テレビ・ラジオ」(55.7%)が選択肢の中で唯一5割を超え、次いで「学校」(27.2%)、「家庭」

(26.5%)が2割台後半となっている。以下、「友人や知り合いの言葉」(19.6%)、「著名人(タレント, スポーツ選手等)の言葉」(18.4%)、「情報機器, インターネット」(18.3%)、「職場(アルバイト, パート等を含む)」(14.1%)、「新聞, 書籍等(漫画や雑誌を含む)」(9.0%)となっている。



〔年齢別〕

年齢別に「テレビ・ラジオ」、「学校」、「家庭」を見ると、言葉や言葉の使い方への影響が大きいと思うものに「テレビ・ラジオ」と回答している割合は、30代以上で5割を超え、60代では65.1%と最も高くなっている。一方、16~19歳では2割台半ば、20代では3割台後半にとどまっている。

「学校」は16~19歳で他の年代より高く6割弱となっている。

また、「学校」と「家庭」とを比較すると、20代以上では両者の割合が近づいているが、16~19歳では「学校」(58.5%)

の割合が「家庭」(22.0%)を37ポイント上回っている。

2 人とのコミュニケーションについて

初めて会った人とでも早く打ち解ける方が、時間が掛かる方か。＜問4＞（P9）

—「どちらかと言えば、早く打ち解ける方」が、全ての年代で高い。—

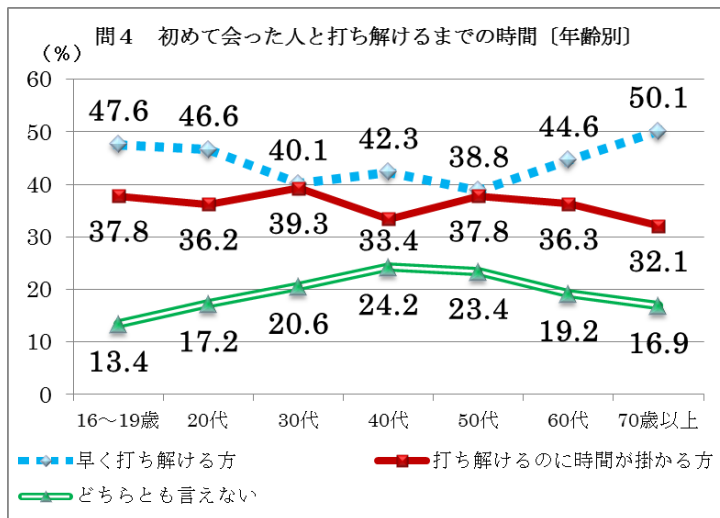
（数字は%）

どちらかと言えば早く打ち解ける方	どちらかと言えば打ち解けるのに時間が掛かる方	どちらとも言えない	分からない
44.3	35.5	20.0	0.2

〔全体〕

初めて会った人とでも早く打ち解ける方だと思うか、打ち解けるまでに時間が掛かる方だと思うかを尋ねた。

「どちらかと言えば、早く打ち解ける方」の割合が44.3%、「どちらかと言えば、打ち解けるのに時間が掛かる方」の割合が35.5%、「どちらとも言えない」の割合が20.0%となっている。



〔年齢別〕

年齢別に見ると、「どちらかと言えば、早く打ち解ける方」の割合は、全ての年代で、他の選択肢の割合を上回っている。そのうち、70歳以上で50.1%と最も高く、50代で38.8%と最も低くなっている。

一方、「どちらかと言えば、打ち解けるのに時間が掛かる方」の割合は、全ての年代で3割台となっている。

相手から、どのように接してほしいか。＜問5＞（P11）

—同僚や近所の人などに対して、及び、初めて会った人に対して、

「余計なことをされたり、立ち入れたくない」と、4割台が回答。—

（数字は%）

〔全体〕

	どちらかと言えば相手に理解されたい、親しみを持ってもらいたいという気持ち強い	どちらかと言えば相手に余計なことをされたり、立ち入れられたりしたくないという気持ち強い	どちらとも言えない	分からない
親しい友人に対して	75.6	13.1	11.0	0.3
同僚や近所の人などに対して	38.0	42.8	19.0	0.2
初めて会った人に対して	20.3	45.8	33.3	0.6

人との関係において、相手に理解されたい、親しみを持ってもらいたいという気持ちと、相手に余計なことをされたり、立ち入れられたりしたくないという気持ちとのどちらを強く感じる方だと思うか、「親しい友人に対して」、「同僚や近所の人に対して」、「初

めて会った人に対して」のそれぞれについて尋ねた。

「親しい友人に対して」では、「どちらかと言えば、相手に理解されたい、親しみを持ってもらいたいという気持ち強い」の割合は75.6%となっている。

「同僚や近所の人などに対して」及び「初めて会った人に対して」では、「どちらかと言えば、相手に余計なことをされたり、立ち入れられたりしたくないという気持ち強い」の割合が、共に4割台となっている。

相手に対して、どのような気持ちで接するか。〈問6〉（P14）

—同僚や近所の人などに対して、及び、初めて会った人に対して、

「余計なことをしたり、立ち入ったりして不快に思われたくない」と、約5割が回答。—

(数字は%)

	どちらかと言えば、相手を理解し、相手と親しくなりたいという気持ちが強い	どちらかと言えば、相手に余計なことをしたり、立ち入ったりして不快に思われたくないという気持ちが強い	どちらとも言えない	分からない
親しい友人に対して	75.0	16.0	8.7	0.3
同僚や近所の人などに対して	31.9	50.9	17.0	0.2
初めて会った人に対して	16.9	49.0	33.4	0.6

〔全体〕

人との関係において、相手を理解し、相手と親しくなりたいという気持ちと、相手に余計なことをしたり、立ち入ったりして不快に思われたくないという気持ちとのどちらを強く感じる方だと思うか、「親しい友人に

対して」、「同僚や近所の人に対して」、「初めて会った人に対して」のそれぞれについて尋ねた。

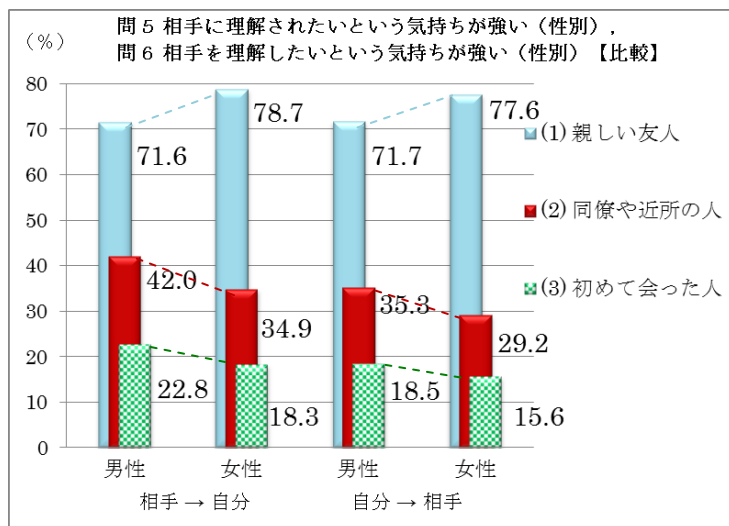
「親しい友人に対して」は、「どちらかと言えば、相手を理解し、相手と親しくなりたいという気持ちが強い」の割合が75.0%となっている。

「同僚や近所の人などに対して」及び「初めて会った人に対して」は「どちらかと言えば、相手に余計なことをしたり、立ち入ったりして不快に思われたくないという気持ちが強い」の割合が、共に約5割となっている。

相手から、どのように接してほしいか。〈問5〉／相手に対して、どのような気持ちで接するか。〈問6〉【比較】

—親しい友人から「理解されたい」、及び親しい友人に対して「理解したい」と

回答した女性の割合は、男性より高い。—



〔性別・比較〕

問5「相手に、どのような気持ちで接してほしいか。」の回答と、問6「相手に対して、どのような気持ちで接するか。」の回答とを性別で比較した。

「親しい友人」から「理解されたい、親しみを持ってもらいたい」と回答した割合は、女性(78.7%)が、男性(71.6%)を、7ポイント上回っている。

また、「親しい友人」に対して「相手を理解し、親しくなりたい」と回答した割合は、女性(77.6%)が、男性(71.7%)を6ポイント上回っている。

一方、「同僚や近所の人」から「理解されたい、親しみを持ってもらいたい」と回答した割合は、男性(42.0%)が、女性(34.9%)を、7ポイント上回っている。

また、「同僚や近所の人」に対して「相手を理解し、親しくなりたい」と回答した割合は、男性(35.3%)が、女性(29.2%)を、6ポイント上回っている。

人間関係を築くために、相手の個人的なことを知る必要があると思うか。〈問7〉（P17）

—親しい友人に対して、「知る必要がある」と30代以下で7割弱から7割台半ばが回答。—

(数字は%)

〔全体〕

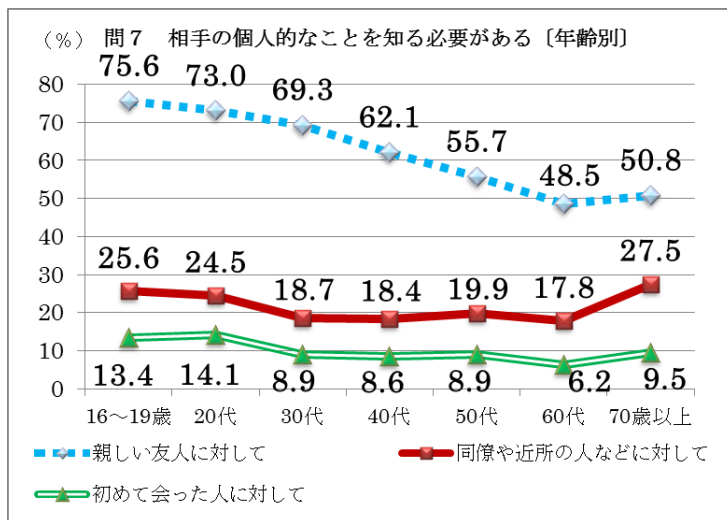
	どちらかと言えば、相手の個人的なことをよく知ることが必要だと思う	どちらかと言えば、相手の個人的なことは知らなくてもよいと思う	どちらとも言えない	分からない
親しい友人に対して	58.1	27.1	14.4	0.3
同僚や近所の人などに対して	21.3	59.1	19.2	0.4
初めて会った人に対して	9.0	59.9	30.5	0.6

気持ちの良い人間関係を築くには、相手の個人的なことをよく知ることが必要だと思うか、相手の個人的なことは知らなくてもよいと思うか、「親しい友人に対して」、「同僚や近所の人に対して」、「初めて会った人に対して」

のそれぞれについて尋ねた。

「親しい友人に対して」では、「どちらかと言えば、相手の個人的なことは知らなくてもよいと思う」の割合は27.1%となっている。

一方、「同僚や近所の人などに対して」及び「初めて会った人に対して」では、「どちらかと言えば、相手の個人的なことは知らなくてもよいと思う」の割合は、共に6割弱となっている。



〔年齢別〕

「どちらかと言えば、相手の個人的なことをよく知ることが必要だと思う」の割合を年齢別に見ると、「親しい友人に対して」は、60代以上で5割前後となっているが、年代が下がるにつれて割合が高くなり、30代で7割弱、20代以下で7割台となっている。

一方、「同僚や近所の人などに対して」は、全ての年代で1割台後半から2割台となり、「初めて会った人に対して」は、全ての年代において1割台前半から1割未満となっている。

人と接する際、相手や場面に合わせて態度を変えようとする方か。〈問8〉（P20）

— 「相手や場面に合わせて態度を変える方」と、20代以下で6割台が回答。 —

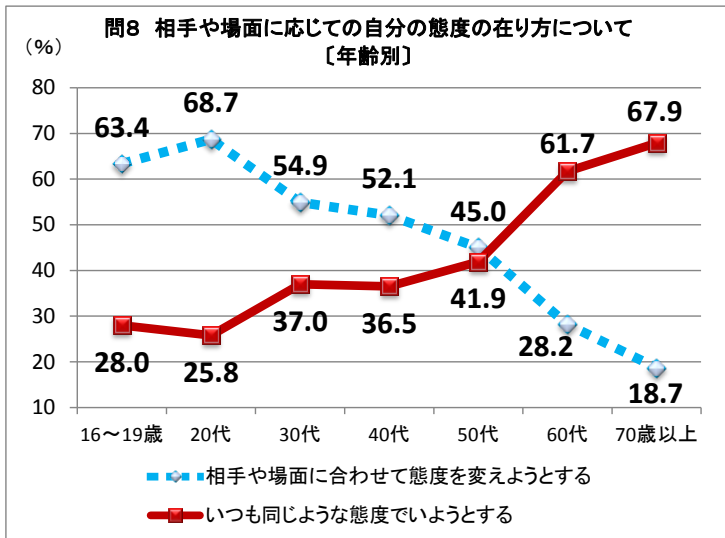
（数字は%）

どちらかと言えば、相手や場面に合わせて態度を変えようとする方	どちらかと言えば、いつも同じような態度でいようとする方	どちらとも言えない	分からない
40.8	48.4	10.6	0.2

〔全体〕

人と接するに当たって、相手や場面に合わせて態度を変えようとする方か、いつも同じ態度でいようとする方かを尋ねた。

「どちらかと言えば、いつも同じような態度でいようとする方」（48.4%）の割合が、「どちらかと言えば、相手や場面に合わせて態度を変えようとする方」（40.8%）を、8ポイント上回っている。



〔年齢別〕

年齢別に見ると、「どちらかと言えば、相手や場面に合わせて態度を変えようとする方」の割合は、年代が下がるほど高くなる傾向が見られ、20代以下で6割台となっている。

一方、「どちらかと言えば、いつも同じような態度でいようとする方」の割合は、年代が上がるほど高くなる傾向が見られ、60代以上で6割台となっている。

相手や場面に合わせて態度を変える人と、同じ態度でいる人のどちらが好ましいか。〈問9〉（P25）

— 「いつも同じような態度でいる方」が、年齢が上がるほど高くなる傾向。 —

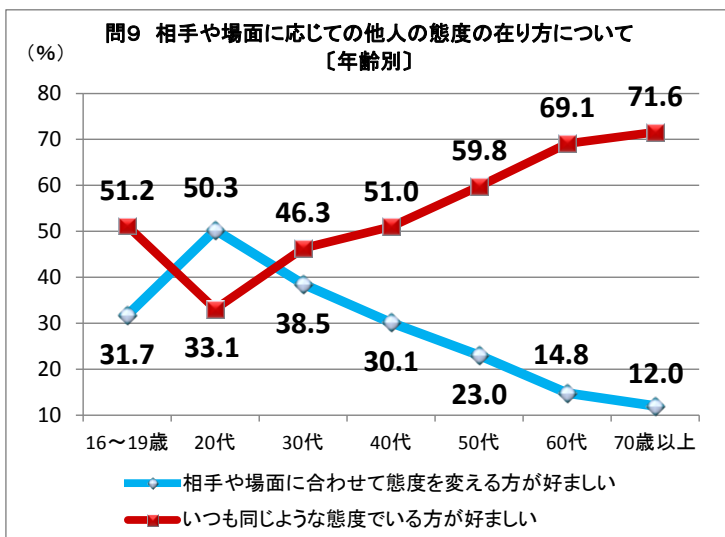
（数字は%）

どちらかと言えば、相手や場面に合わせて態度を変える方	どちらかと言えば、いつも同じような態度でいる方	どちらとも言えない	分からない
24.6	58.6	16.5	0.3

〔全体〕

ほかの人が相手や場面に合わせて態度を変えるのと、相手や場面に関係なくいつも同じような態度でいるのとでは、どちらを好ましいと感じるかを尋ねた。

「どちらかと言えば、いつも同じような態度でいる方」（58.6%）の割合が、「どちらかと言えば、相手や場面に合わせて態度を変える方」（24.6%）を、34ポイント上回っている。



〔年齢別〕

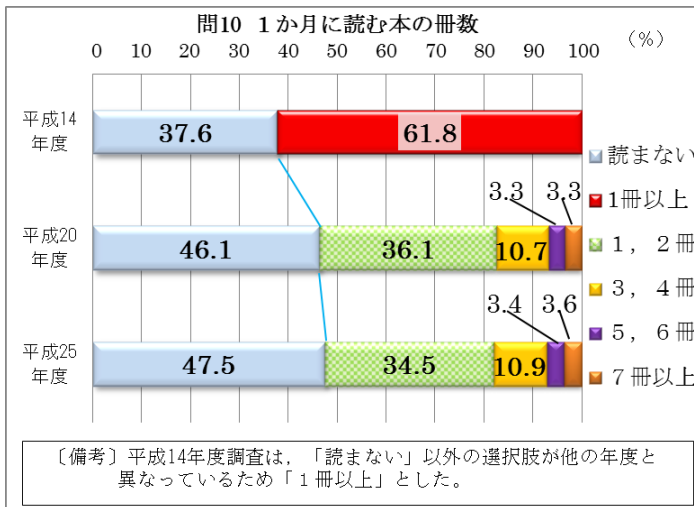
年齢別に見ると、「どちらかと言えば、相手や場面に合わせて態度を変える方」の割合は、20代で50.3%と最も高く、20代以降では年代が上がるにつれて割合が低くなり、70歳以上で12.0%となっている。

一方、「どちらかと言えば、いつも同じような態度でいる方」の割合は20代で33.1%と最も低く、20代以降では年代が上がるにつれて割合が高くなり、60代以上で約7割となっている。

3 読書について

1か月に読む本の冊数について。〈問10〉（P30）

— 1か月に本を1冊も「読まない」と、47.5%が回答。 —



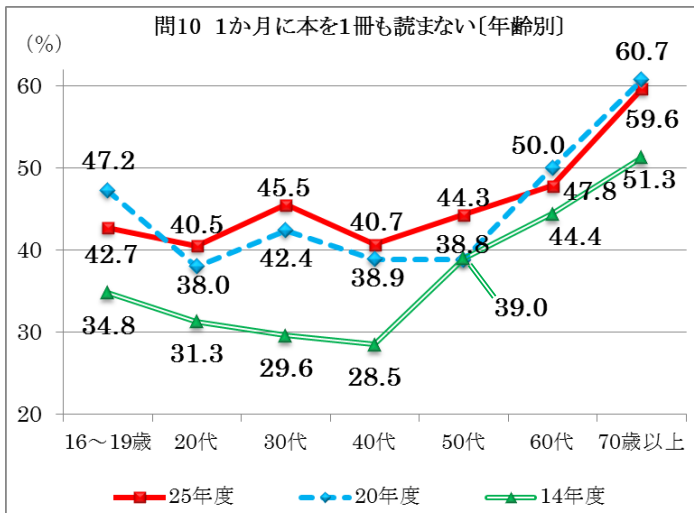
〔全体・過去の調査との比較〕

1か月に大体何冊くらい本を読んでいるかを尋ねた。

「読まない」の割合が47.5%と最も高い。次いで、「1, 2冊」の割合が34.5%、「3, 4冊」の割合が10.9%、「5, 6冊」の割合が3.4%、「7冊以上」が3.6%となっている。

過去の調査結果（平成14, 20年度）と比較すると、平成20年度調査から大きな変化は見られない。

平成14年度調査と比較すると、「読まない」の割合は、10ポイント増加している。



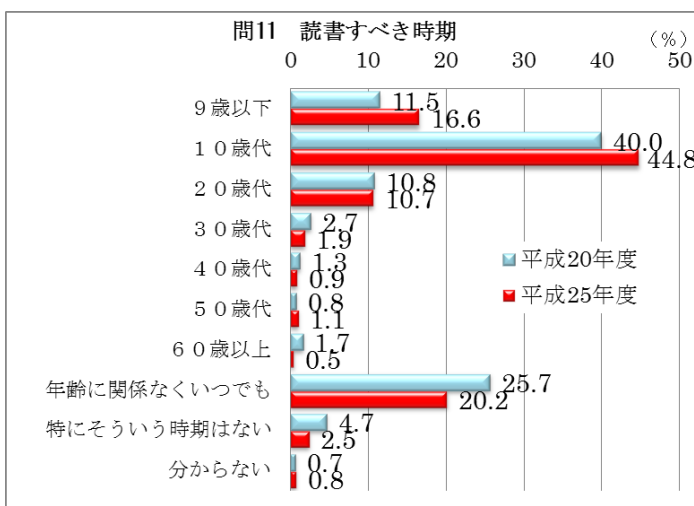
〔年齢別・過去の調査との比較〕

1か月に本を1冊も「読まない」と回答した人（全体の47.5%）を年齢別に見ると、「読まない」の割合は、70歳以上（59.6%）で他の年代よりも高く約6割となっている。一方、20代（40.5%）及び40代（40.7%）では他の年代より低く、約4割となっている。

過去の調査結果（平成14, 20年度）と比較すると、全ての年代で、平成14年度調査より「読まない」の割合が増加している。

人が最も読書すべき時期はいつ頃だと考えるか。〈問11〉（P40）

— 「10歳代」が、44.8%で最も高い。 —



〔全体・過去の調査との比較〕

人が最も読書すべき時期はいつ頃だと考えるかを尋ねた。

割合が高い順に、「10歳代」（44.8%）、「年齢に関係なくいつでも」（20.2%）、「9歳以下」（16.6%）、「20歳代」（10.7%）となっている。

過去の調査結果（平成20年度）と比較すると、「9歳以下」及び「10歳代」の割合は共に5ポイント増加している。一方、「年齢に関係なくいつでも」の割合は6ポイント減少している。

読書量は以前に比べて減っているか、増えているか。〈問12・問12付〉（P42）

—「読書量は減っている」と、65.1%が回答。—

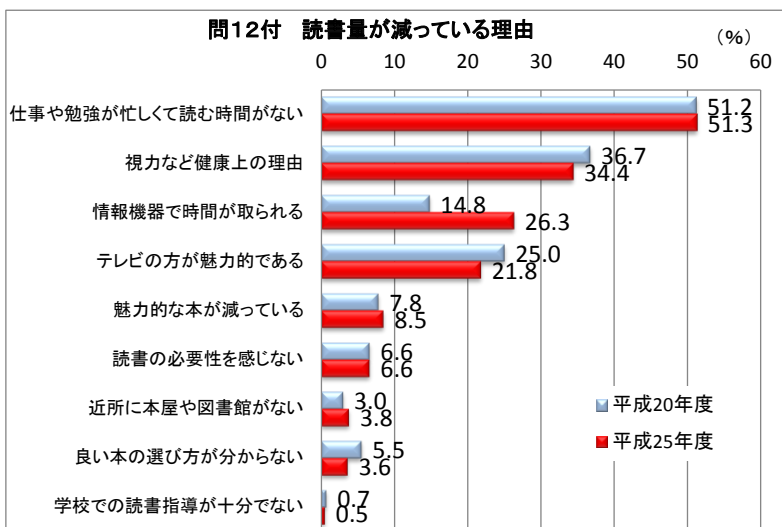
(数字は%)

	平成25年度	平成20年度
読書量は減っている	65.1	64.6
読書量はそれほど変わっていない	26.3	25.3
読書量は増えている	7.4	8.6

〔全体〕

読書量が、以前に比べて減っているか、それとも、増えているかを尋ねた。

「読書量は減っている」の割合は65.1%と最も高い。次いで、「読書量はそれほど変わっていない」(26.3%)、「読書量は増えている」(7.4%)となっている。過去の調査結果(平成20年度)と比較すると、余り変化は見られない。



〔理由・過去の調査との比較〕

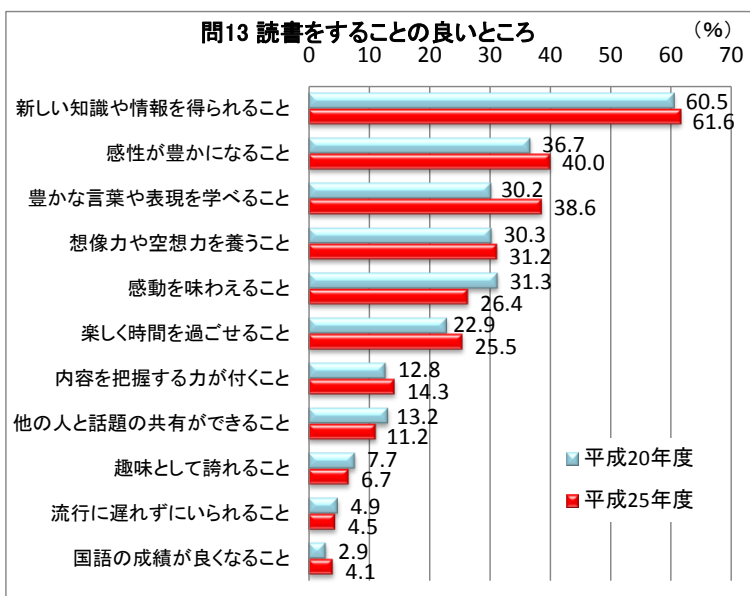
「読書量は減っている」と回答した人(全体の65.1%)に、読書量が減っている理由を尋ねた。(選択肢の中から二つまで回答。)

「仕事や勉強が忙しくて読む時間がない」の割合が51.3%と最も高い。次いで「視力などの健康上の理由」(34.4%)、「情報機器(携帯電話、スマートフォン、タブレット端末、パソコン、ゲーム機等)で時間が取られる」(26.3%)、「テレビの方が魅力的である」(21.8%)となっている。

過去の調査結果(平成20年度)と比較すると、「情報機器(携帯電話、スマートフォン、タブレット端末、パソコン、ゲーム機等)で時間が取られる」の割合が12ポイント高くなっている。

読書をすることの良いところは何だと思うか。〈問13〉（P48）

—「新しい知識や情報を得られること」と、61.6%が回答。—



〔全体・過去の調査との比較〕

読書をすることの良いところは何だと思うかを尋ねた。(選択肢の中から三つまで回答。)

「新しい知識や情報を得られること」の割合が61.6%と最も高い。次いで、「感性が豊かになること」(40.0%)が4割、「豊かな言葉や表現を学べること」(38.6%)及び「想像力や空想力を養うこと」(31.2%)が3割台、「感動を味わえること」(26.4%)、「楽しく時間を過ごせること」(25.5%)が2割台半ばと続いている。

過去の調査結果(平成20年度)と比較すると、今回調査(平成25年度)では「豊かな言葉や表現を学べること」の割合は8ポイント増加している。一方、「感動を味わえること」の割合は5ポイント減少している。

自分の読書量を増やしたいと思うか。〈問14〉（P51）

—「増やしたいと思う（計）」と、66.3%が回答。—

（数字は%）

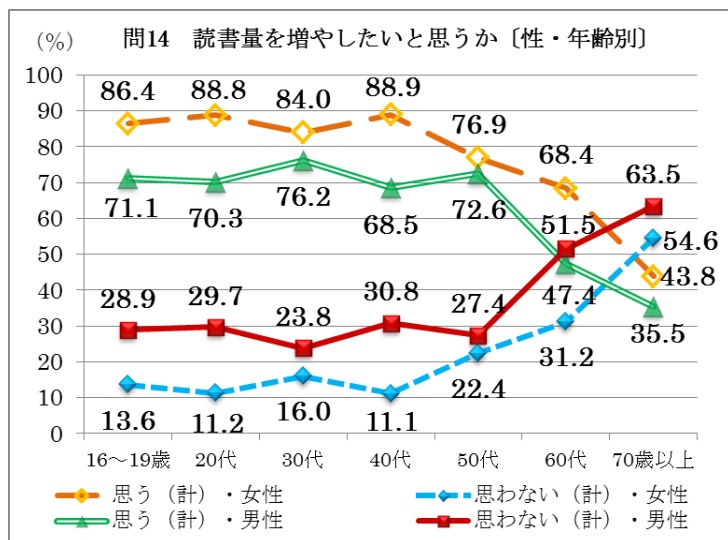
思う（計）		思わない（計）		分からない
66.3		33.2		
そう思う	やや そう思う	余りそうは 思わない	そうは 思わない	
36.8	29.5	20.0	13.2	

は66.3%となっている。一方、「そうは思わない」（13.2%）、「余りそうは思わない」（20.0%）を合わせた「思わない（計）」の割合は33.2%となっている。

〔全体〕

今後、自分の読書量を増やしたいと思うか尋ねた。

「そう思う」（36.8%）、「ややそう思う」（29.5%）を合わせた「思う（計）」の割合



〔性・年齢別〕

性・年齢別に見ると、読書量を増やしたいと「思う（計）」の割合は、男女とも60代以上で、他の年代に比べ低くなっている。

読書量を増やしたいと「思う（計）」の割合は、どの年代においても女性の方が男性より高い。中でも、40代以下では8割台となっている。

70歳以上では、読書量を増やしたいと「思う（計）・男性」（35.5%）の割合が、「思わない（計）・男性」（63.5%）の割合を28ポイント、「思う（計）・女性」（43.5%）の割合が、「思わない（計）・女性」（54.6%）

の割合を11ポイント、それぞれ下回っている。

1か月に読む本の冊数、及び今後の読書量について。〈問10・問14〉【質問間クロス】

—1か月に本を1冊も読まない人のうち、

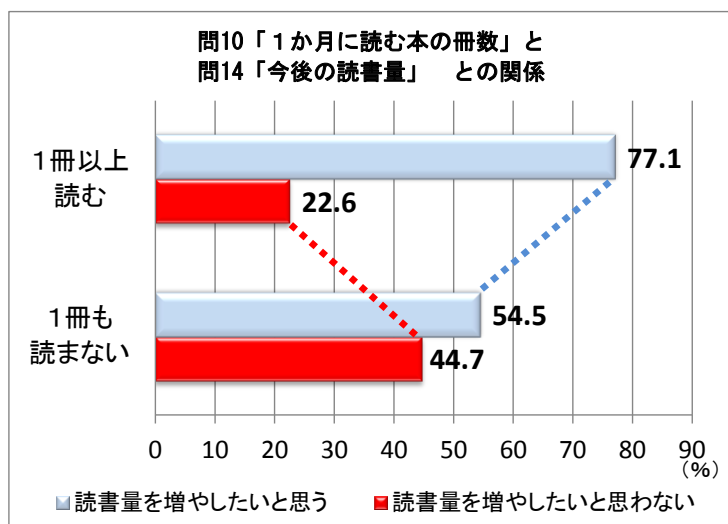
今後、「読書量を増やしたいと思わない」は、44.7%。—

〔全体（質問間クロス）〕

問10「1か月に読む本の冊数」の回答と、問14「今後、自分の読書量を増やしたいと思うか」の回答とを比較した。

1か月に本を1冊以上読む人と読まない人それぞれの今後の読書量についての回答を比べると、1か月に本を1冊以上読むと回答した人のうち77.1%が、「今後も読書量を増やしたいと思う」と回答している。

一方、1か月に本を1冊も読まないと回答した人のうち44.7%が、「今後も読書量を増やしたいと思わない」と回答している。



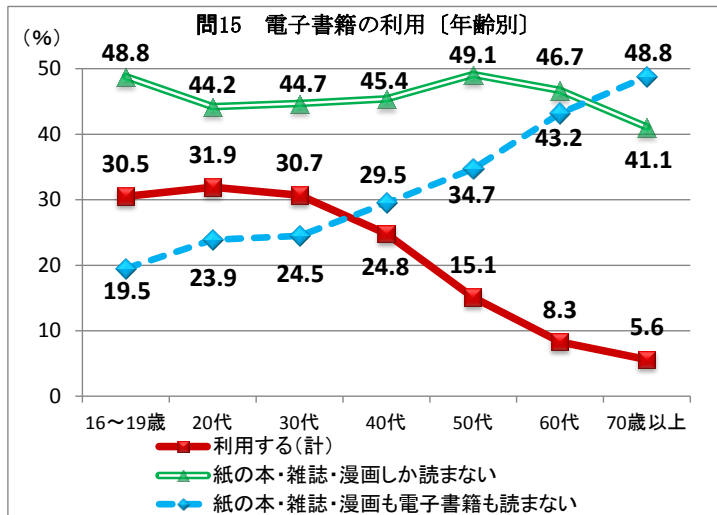
電子書籍（雑誌や漫画も含む）を利用しているか。〈問 15〉（P53）

— 「利用する（計）」と、17.3%が回答。—

〔全体〕

利用する（計）		紙の本・雑誌・漫画しか読まない	紙の本・雑誌・漫画も電子書籍も読まない
17.3			
よく利用する	たまに利用する		
4.6	12.6	45.2	35.9

ふだん、電子書籍（雑誌や漫画も含む）を利用しているか尋ねた。電子書籍を、「よく利用する」（4.6%）、「たまに利用する」（12.6%）を合わせた「利用する（計）」の割合は17.3%となっている。一方、「紙の本・雑誌・漫画しか読まない」の割合は45.2%、「紙の本・雑誌・漫画も電子書籍も読まない」の割合は35.9%となっている。



〔年齢別〕

年齢別に見ると、電子書籍を「利用する（計）」の割合は、20代（31.9%）、30代（30.7%）、16～19歳（30.5%）において3割強と、40代以上に比べて高くなっている。

「紙の本・雑誌・漫画しか読まない」の割合は、全ての年代で4割台となっている。

電子書籍を「利用する（計）」の割合と「紙の本・雑誌・漫画しか読まない」の割合を比較すると、40代以下では、12～21ポイントの開きとなっているが、50代以上では、34～38ポイントの開きが見られる。

電子書籍と紙の本・雑誌・漫画と、どちらを多く利用するか。

（電子書籍を「利用する（計）」と回答した人（全体の17.3%）に質問。）〈問 15 付〉（P53）

— 「電子書籍の方を多く利用する」は、30代と50代で他の年代より高い。—

（数字は%）

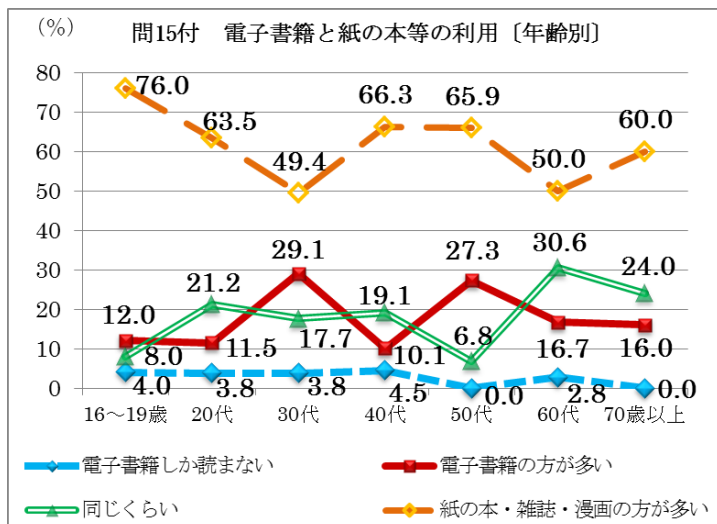
電子書籍しか読まない	電子書籍の方が多い	同じくらい	紙の本・雑誌・漫画の方が多い
3.1	18.0	18.3	60.6

〔全体〕

電子書籍を「利用する（計）」と回答した人（全体の17.3%）に、電子書籍（雑誌や漫画も含む）と紙の本・雑誌・漫画を比べると、どちらを利用することが多いかを尋ねた。

電子書籍を「利用する（計）」と回答した人（全体の17.3%）に、電子書籍（雑誌や漫画も含む）と紙の本・雑誌・漫画を比べると、どちらを利用することが多いかを尋ねた。

「紙の本・雑誌・漫画の方が多い」の割合は60.6%と最も高い。次いで「同じくらい」の割合が18.3%、「電子書籍の方が多い」の割合が18.0%、「電子書籍しか読まない」の割合が3.1%となっている。



〔年齢別〕

年齢別に見ると、「紙の本・雑誌・漫画の方が多い」の割合は30代（49.4%）、60代（50.0%）で他の年代より低く、約5割となっているが、全ての年代で最も高い割合となっている。

一方、「電子書籍の方が多い」の割合は全ての年代で5%未満となっている。「電子書籍の方が多い」の割合は30代（29.1%）、50代（27.3%）で他の年代より高く、2割台後半となっている。

4 敬語について

今後とも敬語は必要だと思うか。〈問 16〉 (P56)

—「必要だと思う (計)」と、98.0%が回答。—

(数字は%) 【 】内は平成 15 年度調査

必要だと思う (計)		必要だと思わない (計)		分からない
98.0 【96.1】		1.4 【3.3】		
必要だと思う	ある程度必要だと思	余り必要だとは思	必要だとは思	
84.5 【67.8】	13.6 【28.3】	1.0 【2.6】	0.4 【0.7】	

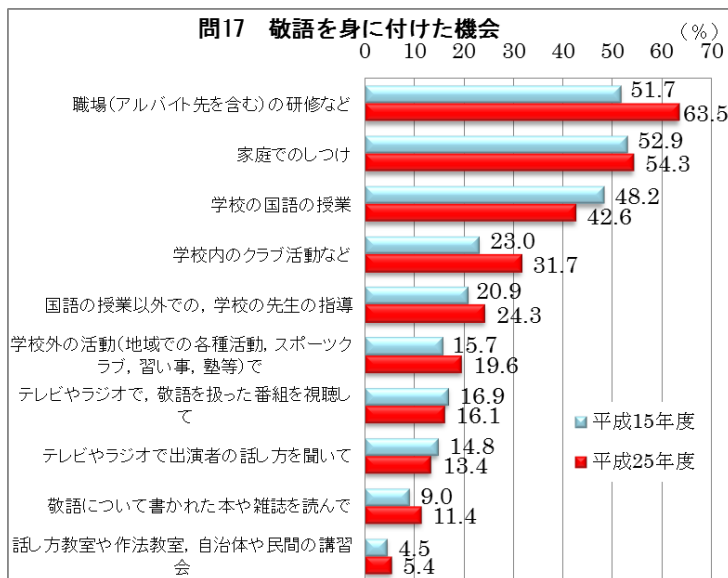
〔全体・過去の調査との比較〕

今後とも敬語は必要だと思うかを尋ねた。「必要だと思う (計)」の割合が 98.0%で、「必要だと思わない (計)」の割合が 1.4%となっている。

過去の調査結果 (平成 15 年度) と比較すると、「必要だと思う (計)」の割合は余り変化がないが、そのうち、「必要だと思う」の割合が 67.8% (平成 15 年度) から 84.5% (今回調査) へと、17 ポイント増加している。

敬語をどのような機会に身に付けてきたと思うか。〈問 17〉 (P62)

—「職場 (アルバイト先を含む) の研修など」と、63.5%が回答。—



〔全体・過去の調査との比較〕

今まで敬語をどのような機会に身に付けてきたかを尋ねた。(選択肢の中から幾つでも回答。)

「職場 (アルバイト先を含む) の研修など」の割合が 63.5% で最も高く、次いで「家庭でのしつけ」(54.3%) となっている。

過去の調査 (平成 15 年度) と比較すると、「職場 (アルバイト先を含む) の研修など」が 12 ポイント、「学校内のクラブ活動など」が 9 ポイント、それぞれ増加している。「家庭でのしつけ」の割合は、平成 15 年度調査では 52.9% で最も高かったが、今回調査では 2 番目に高い割合となっている。

気になる言い方か。〈問 18〉 (P65)

—「先生がおっしゃられたように」という言い方が「気にならない」と 61.1%が回答。—

(数字は%)

〔全体〕

	気になる	気にならない	どちらとも言えない
(1) 先生、こちらでお待ちしてください	72.6	19.6	7.0
(2) お客様が申されました	63.1	25.8	10.3
(3) とんでもございません	25.0	57.5	16.9
(4) お客様がお見えになった	38.2	51.9	9.6
(5) 3時に御出発される予定です	40.1	45.7	13.4
(6) 先生がおっしゃられたように	28.1	61.1	10.5
(7) お客様、どうぞいただきます	74.7	17.8	7.0

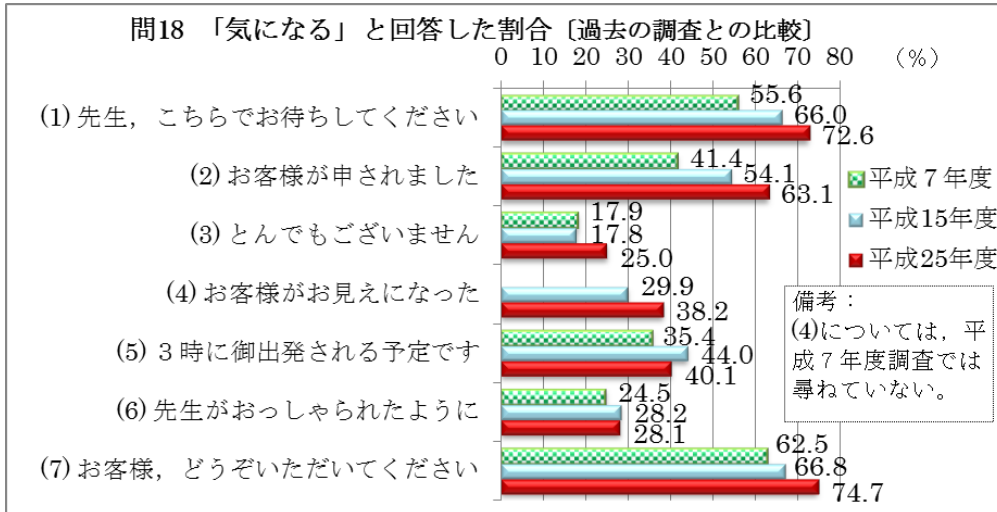
敬語の使い方に関する七つの例文を挙げ、それぞれの言い方について、気になるかどうかを尋ねた。

それぞれの下線部について「気になる」の割合を見ると、「(7)お客様、どうぞいただきます」(74.7%)、「(1)先生、こちらでお待ちしてください」(72.6%)

が 7 割前半、「(2)お客様が申されました」(63.1%) が 6 割前半となっている。

一方、「気にならない」の割合を見てみると、「(6)先生がおっしゃられたように」(61.1%)、「(3)とんでもございません」(57.5%) が、6 割前後となっている。

〔 個別・過去の調査との比較 〕



(1) 先生、こちらでお待ちしてください
謙譲語を、尊敬語として相手に用いている点で問題のある言い方である。「先生、こちらでお待ちになってください」などが本来の言い方である。過去の調査結果（平成7、15年度）と比較すると、「気になる」の割合は増加する傾向にある。

(2) お客様が申されました

謙譲語「申す」に、尊敬の助動詞「れる」を付けたもので、本来、尊敬語として相手に用いるのはふさわしくない言い方とされる。「お客様がおっしゃいました」などが本来の言い方となる。過去の調査結果（平成7、15年度）と比較すると、「気になる」の割合は増加する傾向にある。

(3) とんでもございません

「敬語の指針」ⁱで、「相手からの褒めや賞賛などを軽く打ち消すときの表現」として使うことは問題がないとされている言い方である。今回調査（平成25年度）の中では、「気になる」の割合が25.0%と最も低いが、過去の調査結果（平成7、15年度）と比較すると増加している。

(4) お客様がお見えになった

「見える」に「お…になる」を加えたもので、尊敬表現を重ねた二重敬語であるが、「敬語の指針」では、「習慣として定着している」とされる言い方である。過去の調査結果（平成15年度）と比較すると、「気になる」の割合は増加している。

(5) 3時に御出発される予定です

謙譲語の形「御…する」に、尊敬の助動詞「れる」を付けたもので、本来、尊敬語として相手に用いるのはふさわしくない言い方とされる。「3時に御出発になる予定です」などが本来の言い方である。過去の調査結果（平成7、15年度）と比較すると、「気になる」の割合は平成7年度調査から平成15年度調査にかけて9ポイント増加しているが、平成15年度調査から今回調査（平成25年度）では4ポイントの減少となっている。

(6) 先生がおっしゃられたように

「おっしゃる」に尊敬の助動詞「れる」を加えたもので、尊敬表現を重ねた二重敬語となり、一般に適切ではない言い方とされる。「先生がおっしゃったように」などが本来の言い方である。過去の調査結果（平成7、15年度）と比較すると、「気になる」の割合は平成7年度調査から平成15年度調査にかけて4ポイント増加したが、平成15年度調査から今回調査（平成25年度）では余り変化は見られない。

(7) お客様、どうぞいただいでください

謙譲語を、尊敬語として相手に用いている点で問題のある言い方とされる。「お客様、どうぞ召し上がってください」などが本来の言い方である。過去の調査結果（平成7、15年度）と比較すると、「気になる」の割合は増加する傾向にある。

(注) i 「敬語の指針」は文化審議会から、平成19年2月2日に答申された。

気になる言葉の使い方が。<問 19> (P74)

— 「絵画展は8階で開催してございます」という言い方が「気になる」と66.3%が回答。—

(数字は%)

	気になる	気にならない	どちらとも言えない
(1) あしたは <u>休まさせていただきます</u>	54.5	39.8	5.4
(2) <u>お会計の方</u> , 1万円になります	63.5	30.1	6.2
(3) 千円 <u>から</u> お預かりします	55.0	38.2	6.3
(4) <u>患者様</u> は待合室でお待ちください	29.7	58.5	11.3
(5) <u>絵画展は8階で開催してございます</u>	66.3	25.6	7.5

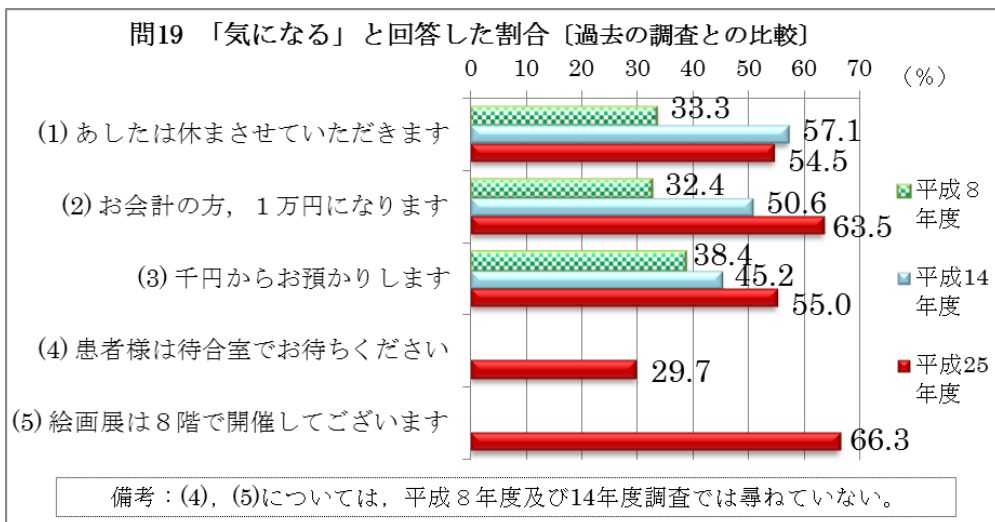
〔全体〕

最近、聞くことのある五つの言い方について、気になるかどうかを尋ねた。

それぞれの下線部について「気になる」の割合を見ると、「(5)絵画展は8階で開催してございます」が66.3%と最も高

くなっている。次いで、「(2)お会計の方, 1万円になります」(63.5%), 「(3)千円からお預かりします」(55.0%), 「(1)あしたは休まさせていただきます」(54.5%) となり、いずれも「気になる」の割合が5割を超えている。一方、「(4)患者様は待合室でお待ちください」は29.7%と最も低く、約3割となっている。

〔個別・過去の調査との比較〕



(1) あしたは休まさせていただきます

「あしたは休まさせていただきます」などが本来の言い方。過去の調査結果（平成8, 14年度）と比較すると、「気になる」の割合は平成8年度から14年度調査にかけて24ポイント増加しているが、平

成14年度から今回調査（平成25年度）では3ポイントの減少となっている。

(2) お会計の方, 1万円になります

「～の方」という表現が問題にされることがある言い方である。過去の調査結果（平成8, 14年度）と比較すると、「気になる」の割合は平成8年度から14年度調査にかけて18ポイント増加しており、平成14年度から今回調査（平成25年度）にかけて13ポイント増加している。

(3) 千円からお預かりします

「～から」という表現が問題にされることがある言い方である。過去の調査結果（平成8, 14年度）と比較すると、「気になる」の割合は平成8年度から14年度調査にかけて7ポイント増加しており、平成14年度から今回調査（平成25年度）にかけて10ポイント増加している。

(4) 患者様は待合室でお待ちください

「～様」という表現が問題にされることがある言い方である。「気になる」の割合が29.7%で、「気にならない」の割合（58.5%）を29ポイント下回っている。

(5) 絵画展は8階で開催してございます

「絵画展は8階で開催しております」などが本来の言い方。「気になる」の割合が66.3%で、「気にならない」の割合（25.6%）を41ポイント上回っている。

5 漢字を用いた語と外来語の意味・使い分けについて

同じ意味の言葉だと思うか。それとも、使い分けのできる言葉だと思うか。〈問 20〉 (P78)

—「使い分けができると思う」が「同じ意味だと思う」を上回ったのは「必要性/ニーズ」だけ。—

(数字は%) [全体]

	(a)	(b)	同じ意味 だと思 う	使い分け ができ ると思 う	二つとも 意味が分 からない	(a)の意味 しか分か らない	(b)の意味 しか分か らない	分から ない
(1)	必要性	ニーズ	38.4	45.3	1.9	11.4	0.6	2.4
(2)	取消し	キャンセル	77.7	20.5	0.3	1.0	0.1	0.3
(3)	利点	メリット	70.0	23.6	1.3	3.2	0.4	1.5
(4)	危険性	リスク	53.8	39.3	0.6	4.8	0.2	1.2
(5)	合意	コンセンサス	29.3	20.9	2.2	42.4	2.0	3.3
(6)	優先順位	プライオリティー	26.1	15.0	2.2	50.2	2.9	3.6
(7)	基本計画	マスタープラン	42.7	21.4	2.5	29.3	1.6	2.4
(8)	技能	スキル	48.3	28.4	1.3	19.2	0.8	1.9
(9)	技術革新	イノベーション	39.0	20.9	6.3	28.2	2.0	3.7
(10)	災害予想地図	ハザードマップ	62.8	17.6	1.7	14.6	1.2	2.1

同じような文脈で用いられることのある(a)漢字を用いた語と(b)カタカナ語の組合せ10項目について、同じ意味の言葉だと思うか、使い分けのできる言葉だと

思うかを尋ねた。

「同じ意味だと思う」の割合は、「(2)(a)取消し/(b)キャンセル」が77.7%で最も高い。「使い分けができると思う」の割合は、「(1)(a)必要性/(b)ニーズ」が45.3%で最も高い。「(a)の意味しか分からない」の割合は、「(6)(a)優先順位/(b)プライオリティー」が50.2%で最も高い。

不特定多数の人に宛てた文書等に用いる言葉として、どちらの言葉を使う方がいいと思うか。

(「同じ意味だと思う」と回答した人に質問。) 〈問 20 付〉 (P79)

—全ての項目で「(a) (漢字を用いた語) を使った方がいい」と、多数が回答。—

(数字は%) [全体]

	(a)	(b)	(a)を使 った方が いい	(b)を使 った方が いい	どちらで も変わら ない	分から ない
(1)	必要性	ニーズ	77.5	5.8	16.2	0.5
(2)	取消し	キャンセル	70.1	9.3	19.9	0.8
(3)	利点	メリット	57.4	19.2	22.8	0.6
(4)	危険性	リスク	60.2	15.8	23.8	0.2
(5)	合意	コンセンサス	84.2	3.9	11.3	0.7
(6)	優先順位	プライオリティー	89.6	0.8	9.5	0.2
(7)	基本計画	マスタープラン	82.9	4.5	12.0	0.6
(8)	技能	スキル	65.4	11.8	22.7	0.1
(9)	技術革新	イノベーション	72.8	9.4	17.7	0.1
(10)	災害予想地図	ハザードマップ	55.1	25.3	19.5	0.1

同じような文脈で用いられることのある、(a)漢字を用いた語と(b)カタカナ語の組合せ10項目について「同じ意味だと思う」と答えた人に、役所などの公官庁が作成する文書のように、不特定多数の人に宛てた文書等に用いる言葉としては、(a)漢字の語と(b)カタカナ語のどちらを使う方がいいか尋ねた。

「(a)漢字を用いた語を使った方がいい」の割合は、「(6)(a)優先順位/(b)プライオリティー」が89.6%と最も高く、ほかの全ての項目においても「(a)を使った方がいい」が5割を超えている。

一方、「(b)カタカナ語を使った方がいい」の割合が最も高いのは「(10)(a)災害予想地図/(b)ハザードマップ」(25.3%)で、次いで「(3)(a)利点/(b)メリット」(19.2%)となっている。「どちらでも変わらない」の割合は、「(4)(a)危険性/(b)リスク」が23.8%と最も高く、次いで「(3)(a)利点/(b)メリット」(22.8%)、「(8)(a)技能/(b)スキル」(22.7%)となっている。

6 「～る」「～する」形の動詞について

「～る」「～する」の言い方を聞いたことがあるか、また使うことがあるか。〈問21〉(P88)

—「チンする」は9割,「サボる」は8割台半ばの人が「使う」と回答。—

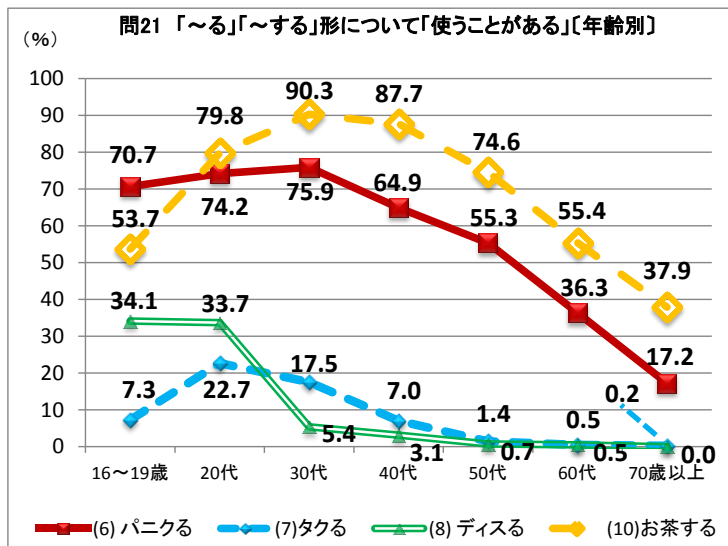
(数字は%)

「～る」 「～する」形		聞いたこと がない	聞いたことは あるが使うこ とはない	使うことが ある	分から ない
(1) 愚痴る	「愚痴を言う」という意味で	6.8	44.7	48.3	0.2
(2) 事故る	「事故を起こす, 事故に遭う」という意味で	5.7	41.5	52.6	0.1
(3) 告る	「(好意や愛を) 告白する」という意味で	25.0	52.3	22.3	0.4
(4) きよどる	「挙動不審な態度をする」という意味で	48.7	34.9	15.6	0.7
(5) サボる	「なまける」という意味で	1.0	12.5	86.4	0.1
(6) パニクる	「慌ててパニックになる」という意味で	8.8	41.6	49.4	0.2
(7) タクる	「タクシーに乗る」という意味で	71.9	21.6	5.9	0.5
(8) ディスる	「けなす, 否定する」という意味で	73.7	20.1	5.5	0.6
(9) チンする	「電子レンジで加熱する」という意味で	1.2	8.3	90.4	0.0
(10) お茶する	「喫茶店やカフェなどに入る」という意味で	5.8	27.6	66.4	0.3

〔全体〕

10項目の言い方を聞いたことがあるか、ないか、また、使うことがあるかどうかを尋ねた。

「使うことがある」の割合は、「(9)チンする」が90.4%で最も高く、次いで「(5)サボる」(86.4%), 「(10)お茶する」(66.4%)となっている。一方、「(8)ディスる」(5.5%), 「(7)タクる」(5.9%)は1割未満となっている。



〔年齢別〕

「使うことがある」と回答した割合について、年齢別に「(10)お茶する」、「(6)パニクる」、「(7)タクる」、「(8)ディスる」の四つを示した。

「(10)お茶する」は、「使うことがある」の割合が、30代で90.3%と最も高く、70歳以上(37.9%)と52ポイントの差がみられる。

「(6)パニクる」は、「使うことがある」の割合が、30代で75.9%と最も高く、年代が上がるにつれて割合が低くなっており、70歳以上(17.2%)と59ポイントの

差が見られる。

「(7)タクる」は、「使うことがある」の割合が20代(22.7%)及び30代(17.5%)で2割前後となっているが、16～19歳及び40代以上では1割に満たない。中でも、60代(0.5%), 70歳以上(0.2%)では1%未満となっている。

「(8)ディスる」は、「使うことがある」の割合が16～19歳(34.1%)及び20代(33.7%)で3割前半となっている。一方、30代以上では1割に満たず、中でも、50代(0.7%), 60代(0.5%), 70歳以上(0.0%)では1%未満となっている。

7 慣用句等の意味について

どちらの意味だと思うか。〈問 22〉 (P92)

— 「世間ずれ」「やぶさかでない」「まんじりともせず」は、
本来とは違う意味とされる方が多く選択されている。—

〔全体・過去の調査との比較〕

六つの言葉を挙げて、どの意味だと思うかを尋ねた。辞書等で本来の意味とされるものをゴシック体で記した。

今回尋ねた六つの言葉のうち、「(2)世間ずれ」、「(5)やぶさかでない」、「(6)まんじりともせず」は、本来とは違う意味とされる方が多く選択されるという結果となっている。

(数字は%)

	平成25年度	平成16年度
(1) 他山の石		
(ア) 他人の誤った言行も自分の行いの参考となる	30.8	26.8
(イ) 他人の良い言行は自分の行いの手本となる	22.6	18.1
(ウ) (ア) と (イ) の両方	4.5	5.5
(エ) (ア) や (イ) とは全く別の意味	6.2	22.4
(オ) 分からない	35.9	27.2
(2) 世間ずれ		平成16年度
(ア) 世の中の考えから外れている	55.2	32.4
(イ) 世間を渡ってずる賢くなっている	35.6	51.4
(ウ) (ア) と (イ) の両方	1.9	3.3
(エ) (ア) や (イ) とは全く別の意味	2.7	7.8
(オ) 分からない	4.7	5.1
(3) 煮詰まる 【例文：七日間に及ぶ議論で計画が煮詰まった。】		平成19年度
(ア) (議論が行き詰まってしまって) 結論が出せない状態になること	40.0	37.3
(イ) (議論や意見が十分に尽くして) 結論が出る状態になること	51.8	56.7
(ウ) (ア) と (イ) の両方	3.6	1.2
(エ) (ア) や (イ) とは全く別の意味	1.4	0.2
(オ) 分からない	3.2	4.6
(4) 天地無用 【例文：天地無用の荷物】		
(ア) 上下を気にしないでよい	29.2	
(イ) 上下を逆にしてはいけない	55.5	
(ウ) (ア) と (イ) の両方	1.8	
(エ) (ア) や (イ) とは全く別の意味	4.2	
(オ) 分からない	9.3	
(5) やぶさかでない 【例文：協力を求められればやぶさかでない。】		
(ア) 喜んでする	33.8	
(イ) 仕方なくする	43.7	
(ウ) (ア) と (イ) の両方	2.4	
(エ) (ア) や (イ) とは全く別の意味	6.2	
(オ) 分からない	14.0	
(6) まんじりともせず 【例文：まんじりともせずその時間を過ごした。】		
(ア) じっと動かないで	51.5	
(イ) 眠らないで	28.7	
(ウ) (ア) と (イ) の両方	3.4	
(エ) (ア) や (イ) とは全く別の意味	4.6	
(オ) 分からない	11.7	

動画ⁱ

10/3～

公開中

動画

9/5～

公開中

動画

9/19～

公開中

過去の調査結果 ((1), (2)は平成16年度, (3)は平成19年度)と比較すると、「(1)他山の石」では、本来の意味とされる方を選択した割合は4ポイント増加した。また、「(ア)や(イ)とは全く別の意味」の割合は16ポイント減少している。

「(2)世間ずれ」では、本来の意味とされる方を選択した割合は16ポイント減少し、本来の意味ではない方を選択した割合は23ポイント増加している。過去の調査では、本来の

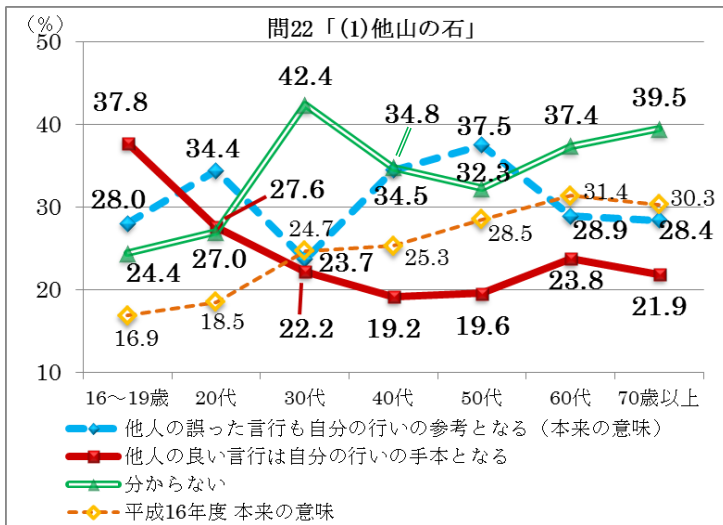
意味を選択した割合が、本来の意味ではない方を選択した割合を上回っていたが、今回の調査では逆転している。

「(3)煮詰まる」は、本来の意味とされる方を選択している割合は5ポイント減少し、本来の意味ではない方を選択した割合は3ポイント増加している。

(注) i 「国語に関する世論調査」を基に「ことば食堂へようこそ!」という動画を配信している。

〔年齢別・過去の調査との比較〕 ※本来の意味とされるものは点線（---）で表示した。

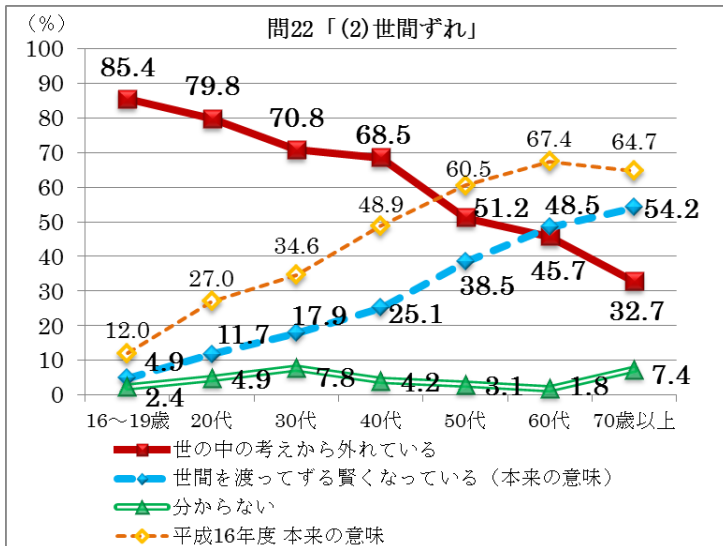
(1) 他山の石



年齢別に見ると、本来の意味とされる「他人の誤った言行も自分の行いの参考となる」の割合は、50代で37.5%と他の年代より高く、30代で23.7%と他の年代よりも低くなっている。一方、「他人の良い言行は自分の行いの手本となる」の割合は、16~19歳で他の年代より高く37.8%となっている。

過去の調査結果（平成16年度）と比較すると、本来の意味とされる方を選択した割合は、16~19歳、20代、40代、50代で高くなっている。

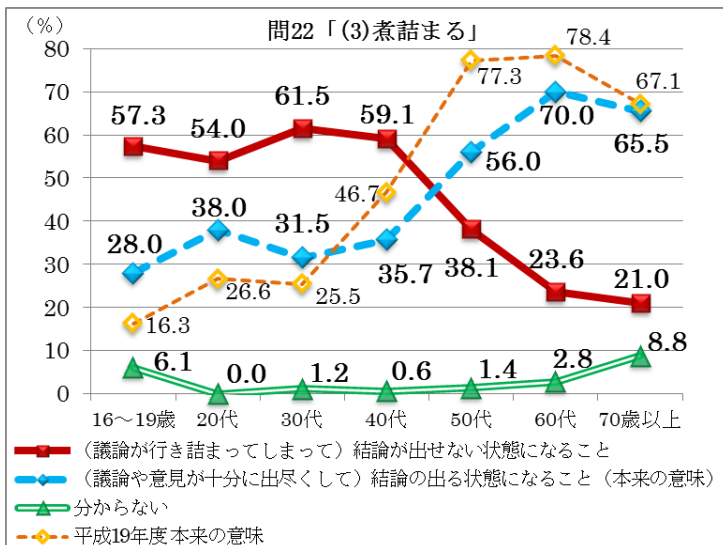
(2) 世間ずれ



年齢別に見ると、本来の意味とされる「世間を渡ってずる賢くなっている」の割合は年代が上がるにつれて高くなり、70歳以上で54.2%となっている。一方、「世の中の考えから外れている」の割合は年代が下がるにつれて高くなり、中でも、16~19歳では8割台半ばとなっている。

過去の調査結果（平成16年度）と比較すると、本来の意味とされる方を選択した割合は、全ての年代で低くなっている。中でも、40代では24ポイント低くなっている。

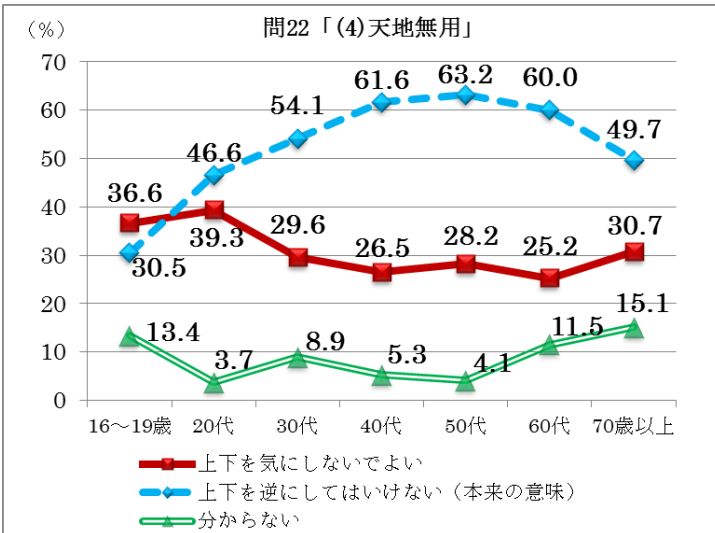
(3) 煮詰まる



年齢別に見ると、本来の意味とされる「結論の出る状態になること」の割合は、50代（56.0%）、60代（70.0%）、70歳以上（65.5%）で5割を超えている。「結論が出せない状態になること」の割合は、40代以下で5割を超えている。

過去の調査結果（平成19年度）と比較すると、本来の意味とされる方を選択した割合は、30代以下で増加し、40代以上で減少している。

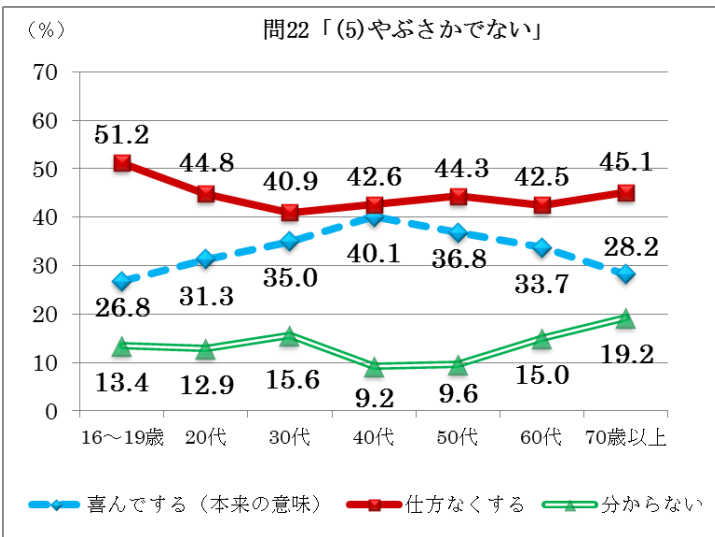
(4) 天地無用



年齢別に見ると、本来の意味とされる「上下を逆にしてはいけない」の割合は、40代 (61.6%)、50代 (63.2%)、60代 (60.0%) で他の年代より高く6割台となっている。

一方、「上下を気にしないでよい」の割合は16~19歳 (36.6%)、20代 (39.3%) と他の年代より高く3割台後半となっている。中でも16~19歳では、本来の意味とされる「上下を逆にしてはいけない」の割合が、「上下を気にしないでよい」の割合を6ポイント下回っている。

(5) やぶさかでない

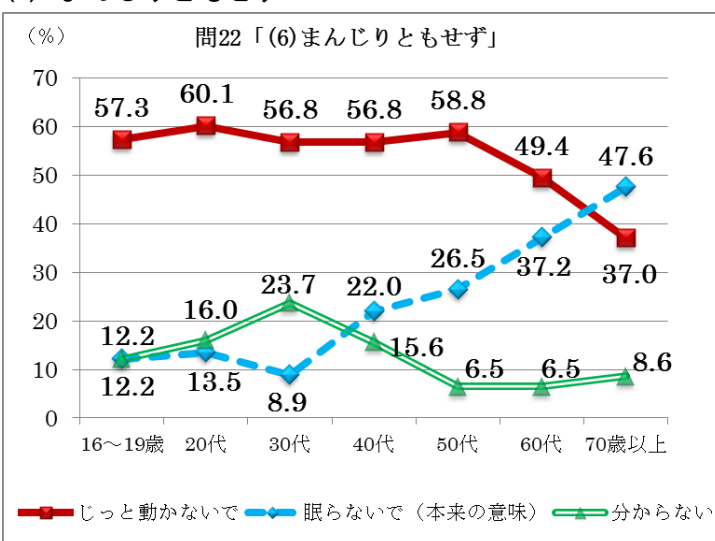


年齢別に見ると、本来の意味とされる「喜んでする」の割合は、全ての年代で「仕方なくする」の割合を下回っている。

「喜んでする」の割合は、16~19歳から年代が上がるにつれて高くなり、40代で約4割となるが、以降、年代が上がるに従って低くなっている。

40代では、「喜んでする」(40.1%)と、「仕方なくする」(42.6%)の割合の差が3ポイントと他の年代に比べて小さい。

(6) まんじりともせず



年齢別に見ると、本来の意味とされる「眠らないで」の割合は、60代 (37.2%)、70歳以上 (47.6%) では他の年代より高くなっている。中でも70歳以上では「じっと動かないで」の割合 (37.0%) を11ポイント上回っている。

50代以下では、「眠らないで」の割合は、「じっと動かないで」の割合を、32~48ポイント下回っている。

また、「分からない」の割合は30代で23.7%となり、他の年代より高くなっている。